

## 復興支援の御礼

公益社団法人 熊本県精神科協会 理事 松本 武士

先の震災では、皆様におかれましても甚大な被害を受けられたにも関わらず、迅速かつ身の温まる御支援、御声援を賜り、また義援金まで頂戴しまして心より感謝申し上げますと共に、復興に対する激励に勇気付けられた次第です。それに何と言っても「熊本で良かった」と、これ程以上に実感させられたのは一生で最初で最後の経験であったのではないかと考えています。

天災を前にして人間の無力さを痛感させられました。それと同時に避難、復旧といった御支援の経験を通して「人たる所以のすばらしさ」を身をもって経験する機会を与えてくださり、また「熊精協あつての熊本」を誇らしく思えたことはありません。

今まで熊精協の伝統を築いてこられた諸先輩方に若輩者の身分で恐縮ではございますが謹んで敬意を表したいと思えます。

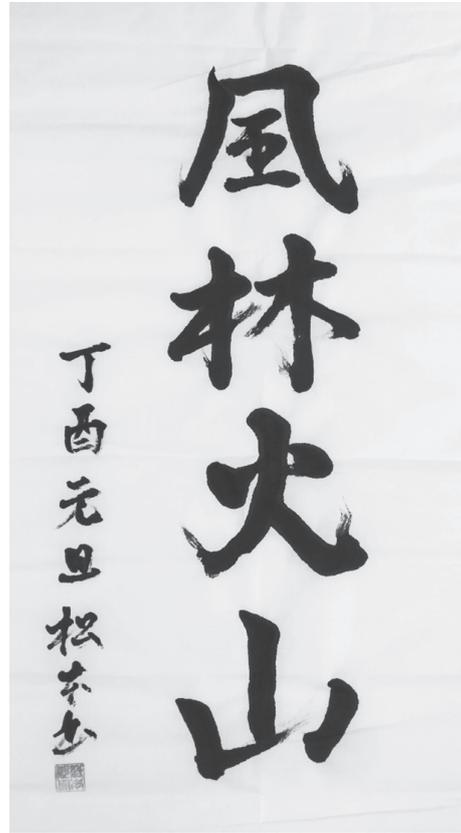
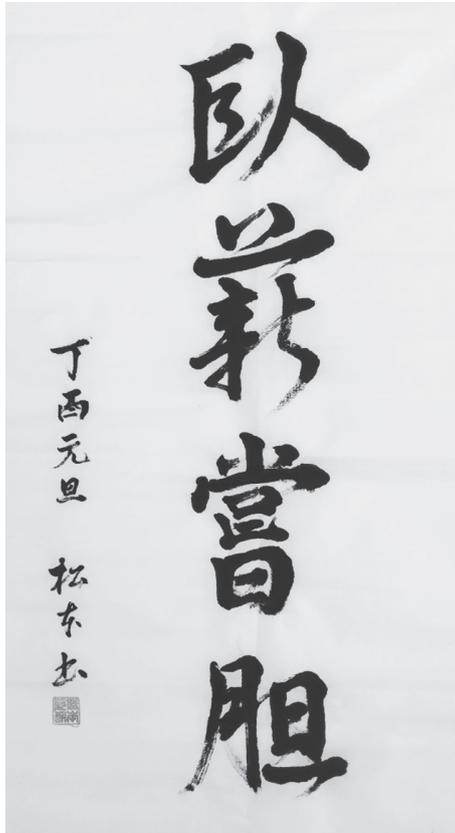
震災から約10ヶ月が経とうとしており当院にある通りの梅の木には「情熱」と「癒し」を感じさせられる赤紫の蕾につい目が行ってしまう春の息吹を感じさせられるような季節となって参りました。

ところで当院の現状と致しましては今だに、オーバーベット、デイケアルームの病室転換、子ども診療の削減、円滑な入退院の促進など様々な課題は継続しております。

それに当院のシンボルでありました病棟、リハビリ施設が入った「碧天荘」。そこの屋根には熊本を一望できる眺望檜が立っており、北には熊本市、真北にはちょうど熊本県庁、南には九州山地、東には阿蘇山、西には島原が見え見晴らしは最高のロケーションでした。そこに立つと熊本城の天守閣に立った様な錯覚を抱き、加藤清正公は熊本全体を一望しながら薩摩藩、島津の機微、動向を窺い、軍略を練っていたのではないかと考えさせられたりしてしまいました。今年の1月に入ってからはその解体作業が寂しさや希望を持ってようやく始まりました。平成30年3月の完成を首を長くして待ちながらも震災時に賜ったご厚情に貢献できるような体制を整備している段階です。しかし復興には長い月日がかかるため、最も心掛けていることはスタッフのモチベーションが下がらぬよう団結していくことかと思えます。震災前には週に一度だった朝礼を、毎朝続けスタッフの気持ちに寄り添ったり、激励したり、ブレーキを掛けたりなど統制が乱れぬよう采配を振るっており細やかな心配りは欠かさぬようにしております。次にしっかりとした復興理念が必要で、当院における復興スローガンとして「風林火山」「臥薪嘗胆」を旗印に掲げ、チーム一丸となって精進しております。

必ずや、何かを掴んで復興を成し遂げ、皆様の期待に貢献できるよう頑張る所存でございます。今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 復興スローガン



当院理事長 松本郁郎書  
平成29年元旦



①～④ 平成28年4月 塩崎厚生労働大臣視察時の様子

⑤⑥ 平成28年12月末 復興祈念餅つき大会